

CASBEE-建築(新築)2016年版
柏市子ども・若者総合支援センター

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40		-	3.4
1 音環境						3.2	0.15	2.4	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.0	0.40	2.7	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.54	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.46	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		事)1階事務室 : タイルカーペット、ロックウール吸音板				4.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						3.1	0.35	3.2	1.00	3.1
2.1 室温制御						3.2	0.50	3.4	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		事・病)断熱材を強化し、外皮性能を向上				4.0	0.25	4.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.2	0.25	3.3	1.00	3.2
3.1 昼光利用						2.4	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		病)2階男子居室8 : 1.25%以上				2.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						4.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御		病)2階男子居室8 : ブラインド+庇を組み合わせてグレアを制御				4.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		事)1階事務室 : 750lx				4.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						4.2	0.25	4.0	1.00	4.2
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		事・病)建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						4.1	0.30	4.0	0.38	
1 換気量		事・病)建築基準法の1.4倍、病)2階男子居室8 : 1.3倍を確保				5.0	0.38	4.0	0.33	
2 自然換気性能		病)2階男子居室8 : 有効開口面積=室面積の1/10以上確保				3.0	0.23	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		事)1階事務室 : 給気口は汚染源の少ない方位へ設置かつ、各種排気口と6m以上離して設置				4.0	0.38	3.0	0.33	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		事・病)中央システムにて常時監視が可能、管理マニュアル等の整備を計画				5.0	0.35	-	-	
2 喫煙の制御		事・病)全館禁煙で計画				5.0	0.65	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.8
1 機能性						3.8	0.40	4.8	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		病)個室10㎡/床以上で計画、2床室8㎡/床以上				1.0	0.23	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.23	-	-	
3 バリアフリー計画		事・病)バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準を満たす				4.0	0.53	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.7	0.30	4.5	0.40	
1 広さ感・景観		事)1階事務室 : 天井高2.7m以上・窓を設置、病)2階男子居室8 : 天井高2.5m以上				4.0	0.23	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		事)延面積に対し1%以上のリフレッシュスペース、自動販売機を設置				5.0	0.23	-	-	
3 内装計画		事・病)建物計画のコンセプトが明確、建物に求められている機能が明確、それを促進するための取組みがある、光源の色温度の計画を内装計画と合わせて実施、インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施				5.0	0.53	5.0	0.50	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		事・病)防汚性に配慮した建材を使用、外壁面は対候性塗料を使用、外部に露出する金属部材に亜鉛メッキ処理等				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		事・病)十分なスペースの清掃員控室・管理倉庫を計画、専用部以外の諸設備は共用部での維持管理が可能等				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.8	0.30	-	-	3.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		1.25倍の耐震性を有する				4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		事)床:フロアカーペット20年、壁:エマルジョンペイント20年、天井:岩綿吸音板30年 病)床:フローリング20年、壁:クロス20年、天井:クロス30年				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	

	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管・雑排水管・冷媒管の主要用途3種の内、2種がB以上で、Eは不採用	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性			4.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		5.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型器具を採用、配管の系統を区分、雨水を雑用水に利用	5.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信の多様化、精密機械の地下空間への設置を回避、防災無線を設置等	5.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性			3.7	0.30	3.8	1.00	3.7
	3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	4.6	0.50	
	1	階高のゆとり	事)階高:3.7m以上3.9m未満、病)階高3.9m以上	4.0	0.60	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:事)0.1以下、病)共用部0.1以上0.3未満、病)2階男子居室8 :0.1以上0.3未満	5.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック採用	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	ケーブルラック、空配管、PF管採用	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	更新に配慮したルートを確保、更新・修繕時に建物機能の維持が可能	5.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.0
	1 生物環境の保全と創出		既存樹木を保存、自生種の保全に配慮、野生小動物の生息域の確保に配慮、自動灌水設備を計画、建物利用者が自然に親しめる環境を計画	5.0	0.30	-	-	5.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	広場を確保・地域に開放されたホールを計画等、憩いの場を提供し地域の活動上のアメニティ向上に貢献	5.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		4.0	0.50	-	-	
	LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
	LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
	1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.68	5.0	0.20	-	-	5.0
	2 自然エネルギー利用		気圧差換気窓	4.0	0.10	-	-	4.0
	3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]= 0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
	4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	中央監視設備により消費量を把握、妥当性の確認が可能	4.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	建物全体のエネルギー消費量の目標値を計画、建築主に提出	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
	LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
	1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
	1.1 節水		主要水栓の過半以上に自動水栓及び泡沫水栓を採用、加えて節水型便器を設置	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水処理水を雑用水として利用	4.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
	2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減		定着金物、ニューフェローデッキ、Hyper-MEGA工法採用	4.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材、ビニル床材、ボード類にエコマーク認定品を使用	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能、OAフロアを採用	5.0	0.20	-	-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
	1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ 排出率=66%	4.2	0.33	-	-	4.2
	2 地域環境への配慮			3.7	0.33	-	-	3.7
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		気象庁のデータを用いて風環境を把握、風下地域への風通を遮らないよう配慮	4.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		4.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場・駐車場・管理用車両の駐車施設も確保、2か所の出入口を分散設置	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ量の推計やストックスペースの設置、缶潰し器等を計画等	4.0	0.25	-	-	

3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの一部を満たす、広告物照明はない	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		4.0	0.30	-	-	